

Vol.050

福島市議会真政会報

— 平成29年7月 —

真政会報

真政会要綱

私たちは地方自治の信念に則り行政に対する監視と提言を怠ることなく、常に市民と行政のパイプ役として「市民」「議会」そして「市当局」との三位一体を旨とし、市民福祉の向上と地域の振興・発展、真の市政伸展に邁進することを誓う！



▲アオウゼにて開催された市民との意見交換会の様子

市民の皆さんとの意見交換会2017

「町内会活動の活性化とその課題について」

会長挨拶 会派政策立案・実現に向けて



半沢 正典

今年の当会派は、足腰の強い政策立案を行うため、広報広聴機能の強化と周辺自治体との交流をテーマに掲げました。その一環として去る5月17日には第4回と

なります「市民との意見交換会」を開催しました。会を追うごとに運営もスムーズとなり、毎回40人前後の市民の皆様参加を賜り、議員とは違う新たな視点からの意見、要望に加えユニークな提案なども沢山頂戴し、議会活動に反映しております。また、6月23日には、初めて宮城県白石市議会保守

系会派「自民・無所属クラブ」「新風会」2会派8名の議員と白石市長も交え、視察後、市政全般に亘り懇談致しました。来年4月の中核市移行後、連携中枢都市圏構想を見据え、両市の良好な関係を築くためにも議員間の信頼関係を醸成し、今後のスムーズで有意義な連携に繋げて参ります。

第4回の意見交換会を実施

5月17日、真政会主催による第4回の市民との意見交換会をアクティブシニアセンターA.O.Zにて開催いたしました。

今回のテーマは「町内会活動の活性化とその課題について考える」としておりましたが、40名程の方に参加いただき、活発な意見交換を行うことができました。町内会活動は自治活動の基本であり、長年、自治振興協議会からの要望・広聴という全国的にも誇れる体制をとってきた福島市にとっての自助・公助の核となるものです。真政会ではこれまで、町内会活動の活性化を図るためにはどうすべきかを念頭に視察や議会での提言を行ってきました。意見交換会ではこれらを市民

の皆様と共有し、また、市民の皆様から意見をいただくことでよりよい町内会活動を実現するひとつのきっかけにしたいとの思いです。今回は活発な意見交換ができるよう初めてグループ討議の形をとり、4つのグループそれぞれで「町内会の役員不足と加入促進」「魅力的な活動と高齢者対策」のテーマについて意見交換を行いました。

視察先での町内会先進活性化策の共有



1部では町内会活動をテーマに先進事例の報告と意見交換を行いました。これ

で真政会では町内会活動の活性化を進めるため、甲府市と高松市への視察を実施してきましたが、この意見交換会では甲府市の町内会への加入促進に対する様々な施策、又、高松市での高齢者への居場所づくりに対する施策をそれぞれ発表し、参加者の皆様と効果的な施策の情報を共有しました。

グループ討議を通じた意見交換

今回の意見交換会では初めてグループ討議の形式をとり、皆さんが気軽に発言しやすい雰囲気をつくりました。町内会の活動をテーマにしたこともあり参加し



た方々は町内会活動に携わる方も多かったです。元の大學生も参加するなど様々な世代を交えた活発なグループ討議となりました。

グループごとにまとめを発表していただきましたが、集会所の建設・維持費に対する助成予算の増額、町内活動の実施マニュアルの作成の要望など様々な意見がありました。これをもとに6月の定例会議にて集会所の助成金額の上限アップについてを当局に質すなど市民の意見を今後の政策に反映させてまいります。

市政全般についての意見交換

2部では市政全般についてのご意見や要望をいただきました。大笹生地区の工業団地の分譲開始時期や同地区の道の駅の完成時期、又、選挙の立会人を公募制にすべきであるなどの意見がありました。

市民目線に立った政策立案を目指す真政会ではこれからも今回の意見交換などの場を通していただいた市民の皆様のご意見を元に市当局に対し提言を行ってまいります。

秋にも第5回の意見交換会を予定していますので皆様のご参加をお待ちしております。

各常任委員会の報告

常任委員会は、少人数で専門的に審議をつくすために設置される委員会で、それぞれが所管する事務の調査、議案、請願、陳情の審査などを行います。福島市議会基本条例に基づきさらに頑張ってまいります。
なお、【 】内は当会派のそれぞれの所属議員名です。

総務

(定数9人)

【真田・尾形・大平・菅田】

【財務部】新斎場整備事業（5件総額28億9000万円）に伴う工事請負契約について、詳細な説明を聴取し採択いたしました。

【市長公室】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたり野球・ソフトボールの福島市開催をはじめとする関連事業の実施により、これまでの国内外から



【消防本部】高規格救急自動車一台を取得します。（契約金額29,805,840円2,700CCガソリンエンジン乗車定員7名）また総務省消防庁より無償貸与されている放射線測定器の校正を行います。

今回の主な補正予算

- 常備消防管理費…………… 2,342 (千円)

文教福祉

(定数8人)

【渡辺・黒澤・白川】

【教育委員会】十六沼公園西側にあるC・Dコートについて、国際ソフトボール連盟女子基準に則った球場規格（ホーム・フェンス間の距離67.06m以上）とするため、グラウンド拡幅工事を行うものです。

【こども未来部】福島わかば幼稚園の老朽化した園舎の建て替えに伴う補助金の交付を行うものです。

【健康福祉部】民間ビルへ移転予定の夜間急病診療所の整備にあたり、内装工事等に要する費用を負担するものです。



今回の主な補正予算

- 体育施設整備事業費…………… 25,800
- 私立幼稚園施設整備補助金…………… 4,706
- 夜間急病診療所移転整備事業費…………… 99,000 (千円)

経済民生

(定数9人)

【半沢・萩原・川又】

【商工観光部】本年8月中旬合福島店二番館の営業終了に伴い、退店するテナントの中心市街地での営業継続を支援するため、県補助金を活用し、中合福島店テナント退店対策事業費を計上しました。これは空き店舗賃料の一部を補助することにより中心市街地に誘導し、雇用の場の確保、賑わいを創出するものです。

【市民安全部】国民健康保険条例の一部を改正する条例制定の件では、軽減判定所得の算定方法の変更により軽減額が拡大されます。



【環境部】あぶくまクリーンセンター焼却炉の改修費を計上したほか新斎場建設工事の請負契約についての説明があり、平成30年度末供用開始に向け建築本体内工事が始まります。また、ごみの減量化や有料化に関する市民アンケート調査の結果の報告があり今後ごみ処理に関する施策に反映して参ります。

今回の主な補正予算

- 中合福島店テナント退店対策事業費…………… 7,920
- あぶくまクリーンセンター焼却工場施設整備事業費…………… 30,000 (千円)

建設水道

(定数8人)

【穴戸・小松・二階堂】

【都市政策】公共交通と自転車による快適なまちづくり推進事業費1,800万円は、国の地方創生推進交付金を活用し、地方公共交通再編実施計画における市内公共交通ネットワークの再編にかかる実証運行と効果検証を実施するほか、駅前通り買い物客自転車駐車場などを整備するものです。

【建設部】市道矢剣町・鳥谷下町線（天神橋）の長寿命化修繕事業費3,500万円を追加補正。主要地方道・松川土湯温泉線の見附線など市道15路線の

認定と、認定替えにより2路線を廃止しました。
【水道局】平成28年度継続費の平成29年度へ繰り越し1件、平成28年度予算の建設改良費の平成29年度へ繰り越し2件が報告。
今回、「本市の住宅政策に関する調査」の経過並びに結果について報告。「使用可能な空き住戸の有効活用」など市当局に5点の提言を行いました。

今回の主な補正予算

- 公共交通と自転車による快適なまちづくり推進事業費…………… 18,000 (千円)

平成29年6月

定例会議で採択された



(抜粋)

請願	● 国の「被災児童生徒就学支援事業」の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書提出方について
陳情	● 福島市教育委員会の夜間中学の担当に学校教育課を加えることについて
意見書	● 郵便等による不在者投票の対象者の範囲拡大を求める意見書 ● 「被災児童生徒就学支援事業」の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書



行政視察

福島市の課題である、町内会活性化等の先進地を視察

甲府市

町内会加入促進に対する先進事例について

町内会加入率の低下により、隣近所のお付き合いが少なくなり、ごみの収集や、災害時の助け合いなどに支障をきたす懸念が出てきました。そのため、甲府市では、「自治会加入促進ハンドブック」を作成し、それを活用して毎年11月を加入促進月間と定め加入を働きかけています。町会役員は、「自治会は何のためにあるのか」という原点に返り研修を行い、住みよい環境と良好な人間関係を築き、さらには災害等での助け合いなど住民自らが組織すべき制度であることを、再確認するとともに地域の方々にも理解していただき、そのうえで行政の在り方についても検討していくべきであると再認識した実りある視察となりました。

長野市

ごみ処理の有料化について

長野市では平成21年より、ゴミ収集の有料化を始め、ごみの総量の減量を実現しています。実施から7年が経過し、効果などに対しての独自の検証なども行っていることから、福島市での有料化に対する考え方の参考とするため詳細に聴取しました。長野市の検証では、ごみの抑制が現在も続いており、負担割合も適正と判断されています。これからの課題として、ごみ発生の抑制を継続するための市民への啓発が重要となるため「ながのゴミ通信」の発行など様々な施策を展開しており、有料化の移行にあたっては、市民への説明と理解、不法投棄対策などの課題とともに広域連合内の動向は重要であり、周辺市町村とのすりあわせも必要であることが示されました。

富山市

「選ばれるまち」への取り組みについて

都市間競争の中で「選ばれるまち」をめざす富山市の「シティプロモーション（魅力発信）」と「シビックプライド（地域への誇り・愛着）」の具体的取り組みについて視察を行いました。まず、定期的な市民意識調査で「富山の住み心地や定住意識」などを調査・分析し、さらには有識者や若手市職員、学生等意見をもとに、具体的な施策を立案、展開してきました。富山やくぜんのブランド化、水プロモーション、ガラス工芸など当たり前に思っている魅力をフレームで切り取り、ターゲットを絞り込み、戦略的なツール（情報媒体）を選んで発信。このことが総合力の高い町「選ばれるまち」につながっています。



▲シティプロモーションの説明



▲ごみ処理有料化の説明



▲町内会連合会会長より加入促進策の説明

東京電力福島第一原子力発電所の視察

福島第一原子力発電所への視察を福島市議会として行いました。原発事故から6年が経過した今も、放射線の影響を心配する声や放射線物質の安全性の確保、又、廃炉に向けた見通しなどを現地において聴取しました。1号機から4号機までの状況を直接確認するとともに地下水の凍土遮水壁の稼働の現状と課題について現場のパイプ等を確認しながら聴取。廃炉に向け作業が着実に進んでいることを実感しましたがデブリの取り出しなど課題も多いいことがあらためて示されました。

福島復興局長を講師に勉強会開催

復興庁福島復興局長の木幡浩氏を講師に「これからの福島復興と県都福島」と題して、会派勉強会を開催。講演は、除染等の進捗状況とインフラ・生活環境、そして産業・生業の復興についてと続き、今、復興・創世の新たなステージを迎えつつあることを解かりやすく紹介いただきました。最後に、県都に期待するものとして、福島復興を牽引するシンボル都市として新ステージに適応した都市経営と、中核市移行を契機とした街づくりのグレートアップ、住民サービスの向上を挙げられました。

福島県文化スポーツ局長との勉強会

「東京オリンピック、野球・ソフトボール競技」のあづま球場での開催決定を受け、現在までの取組と今後の課題等について5月17日に安齋局長から説明を受けました。平成26年12月に県議会で競技誘致を目指す意向を内堀知事が表明後、野球・ソフトボール競技の開催を要望し実現したものです。今後、試合方法や費用と役割分担など課題はありますが、「福島の復興」を世界に発信していく絶好の機会であり、開催市である本市も関係機関等と連携を密にして成功に導いていかなければなりません。

白石市防災センターを視察

6月23日、白石市防災センターを視察しました。東日本大震災による市役所本庁が大きなダメージを受け、平成26年5月に鉄骨造2階建てのセンターを本庁舎駐車場に建設。緊急防災・減災事業（起債事業）を活用し、非常用電源・防災関連機器を設



▲大規模災害時の案否確認法等を聴取



▲オリンピック開催に向けた県の施策を勉強



▲復興局長からの国の施策の説明



▲復旧状況と課題の説明

定例会議の報告

6月定例会議は6月1日に開会し復興関連予算を含む一般会計4億9千341万9千円の補正予算等議案24件について審査しました。

今定例会議は、委員会任期最後の会議のため4常任委員

会ではそれぞれ所管事務調査の委員長報告を行いました。総務常任委員会では「投票率の向上について」文教福祉常任委員会では「地域福祉の充実に関する調査」経済民生常任委員会では「移住定住の推進に関する調査」建設水道常任委員会では「本市の住

宅政策に関する調査」を、また、除染推進等対策調査特別委員会では「除染事業に関する事項、除染土壌の運搬、原子力損害賠償について」さらに、議員政治倫理条例策定特別委員会では「福島市議会議員政治倫理条例」を議案提出し可決されました。

6月定例会議一般質問(抜粋)

真政会から萩原太郎・白川敏明・小松良行・尾形武の4名が質問に立ち、市政全般の諸課題を質しました。

市長の市政運営について

福島市制施行110周年にあたり、10年後の120周年に向けた市政運営について市長の考えを伺いました。

A ①交通インフラの整備②大学等高等教育機関の充実を踏まえ医療系をはじめとした各種産業の集積③観光の振興やコンベンションの誘致による交流人口の拡大④中核市となる福島市を中心とした南東北における広域連携を拡大し「みんなが誇れる県都ふくしまの創造」に最大限の努力をしていくということでした。議会としても税収等の状況から適切な判断をしてまいります。

市立学校の在り方について

今後の福島市立学校の在り方検討委員会から、今年3月に出された「今後の福島市立小学校・中学校の在り方について」の答申の考え方、また緊急に教育環境の改善が必要とされている2つの視点等について質しました。

A 検討委員会は、「在籍ゼロの学級がある」「複式学級を持つ」市立小中学校は、十小学校、二中学校(他に茂庭小)であり、これらの学校については緊急に改善の必要性があると感じました。市としては地域住民と協議して、適正規模・適正配置を進めると答弁がありました。

モンドセレクション授賞式、市長の出席は必要なのか?

ふくしまの水がモンドセレクション最高金賞を受賞し、本年5月29日にマルタ共和国での授賞式に小林市長が出席したことについて、本来は水道事業管理者が出席すべきで、費用が多額な上、危機管理上も問題。議会を前にして貴重な時間を費やし、市長が出席する必要があ

Q 昭和45年から導入され47年続いた、国による米の減反政策が平成30年度より廃止となります。米の生産は、日本全国で栽培され水田のもつ環境保全、景観の維持等多面的な機能があり、守らなければいけない日本の原風景稲作文化であります。しかし食生活の多様化により、米の消費量が減り又米価が低迷している現在、転作奨励として飼料用米も導入されていますが、これ以上の米価の下落を止め、後継者が意欲を持って取り組める対策を講じることを国へ要望すべきと質しました。

Q 米の生産調整(減反政策)廃止について

ったのかなど伺いました。小林市長は「参加各国の水をPRできた。」と答弁。水道局長は、「これまで2回の出張旅費合計は247万円余で、水道料金に換算すると一般家庭の409か月分に相当すると答弁しました。

今回の一般質問の全文内容は、福島市議会ホームページ【<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/site/gikai/index.html>】の「議会録画中継」でご覧いただけます。

尾形 武
副会長
総務常任委員長
議会運営委員
政治倫理委員
松川町浅川字大古内9
TEL: 548-7683

真田 広志
相談役
総務常任委員
議会運営委員
除染推進委員長
松浪町 1-15
TEL: 526-3201

宍戸 一照
顧問
副議長
建設水道常任委員
荒井字上町裏 10
TEL: 593-1035

渡辺 敏彦
顧問
文教福祉常任委員
中核市調査委員
松川町字青麻山 3
TEL: 567-2660

半沢 正典
会長
経済民生常任委員
中核市調査委員
政治倫理委員長
上鳥渡字寺北 28-3
TEL: 593-5256

誉田 憲孝
総務会長代行
総務常任委員
議会運営委員
中核市調査副委員長
政治倫理委員
本内字西畑 4-6
TEL: 553-7030

大平 洋人
総務会長
総務常任委員
議会運営委員
除染推進委員
八島田字東本庄町 4-27
TEL: 559-2043

白川 敏明
幹事長代行
文教福祉常任委員
議会運営委員会副委員長
政治倫理委員
飯坂町字中原 36
TEL: 542-4041

小松 良行
幹事長
建設水道常任委員
中核市調査委員
瀬上町字東町 2-6-10
TEL: 553-0647

黒沢 仁
副会長
文教福祉常任委員
中核市調査委員
飯野町大久保字谷津 44
TEL: 562-3582

編集後記
夏の水遊びに、茂庭のダム湖でのカヤック体験はいかがですか。夏の日差しを浴びながら家族で水に親しむことができます。準備不要で簡単にカヤックを楽しめます。湖面をスイスイと漕ぐと、モンドセレクション最高金賞受賞の美しい福島の水の源を感じることうけあいです。

※正式名称は左記のとおりです
〔除染推進委員〕
除染推進等対策調査特別委員
〔政治倫理委員〕
議員政治倫理条例策定特別委員
〔中核市調査委員〕
中核市移行調査特別委員

川又 康彦
政調会事務局長
経済民生常任委員
除染推進委員
政治倫理委員
飯坂町字湯町 25
TEL: 542-4251

二階堂 武文
政調会長代行
建設水道常任委員
除染推進委員
町庭坂字内町 51-2
TEL: 591-1138

萩原 太郎
政調会長
経済民生常任副委員長
除染推進委員
山口字下屋敷 28-2
TEL: 535-4693